

市立大町山岳博物館の基本理念



平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりです。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めています。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人との共生する 山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図ります。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することです。

1. 大町市や周辺地域の人たちのために

- (1) 郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供します。
- (2) この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供します。
- (3) 郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意します。
- (4) 豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供します。
- (5) 博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にします。

2. 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

- (1) 観光客・登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について、関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをします。
- (2) 「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となります。
- (3) 大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人との共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進めます。

平成 24 年度からの山岳博物館の基本方針

1. 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進します。

(1) 【調査・研究の分野・範囲】

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおきます。

(2) 【情報収集】

調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集めます。

(3) 【体制づくり】

国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進めます。

2. 資料の収集・整理、保管の推進

北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進します。

(1) 【収集・整理の推進】

早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とします。

(2) 【収集の範囲】

山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこないます。

(3) 【保存・管理の推進】

収集された資料は適正に管理された環境において保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とします。

3. 調査研究の成果および収集資料の活用

調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進めます。

(1) 【調査・研究の成果活用】

調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用します。

(2) **【収集・保管の成果活用】**

収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用します。

(3) **【保護・保全への貢献】**

調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てます。

(4) **【体制づくり】**

山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくります。

4. 教育普及活動の推進

地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすく興味を持てるように示します。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進します。

(1) **【生涯教育・社会教育の推進】**

博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開します。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に満たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進します。

(2) **【学社連携・融合の推進】**

学校と博物館を結んだ事業を積極的におこない、児童・生徒・(先生)の学習の場とし、関心を持つきっかけづくりをします。

(3) **【協働の推進】**

国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進します。

5. 付属園（動植物園）の充実

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にします

(1) **【生体展示】**

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざします。

(2) **【教育普及への活用】**

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をします。

(3) **【傷病鳥獣の救護】**

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をします。

(4) **【希少種の保護】**

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努めます。

(5) **【施設整備の充実】**

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進めます。